

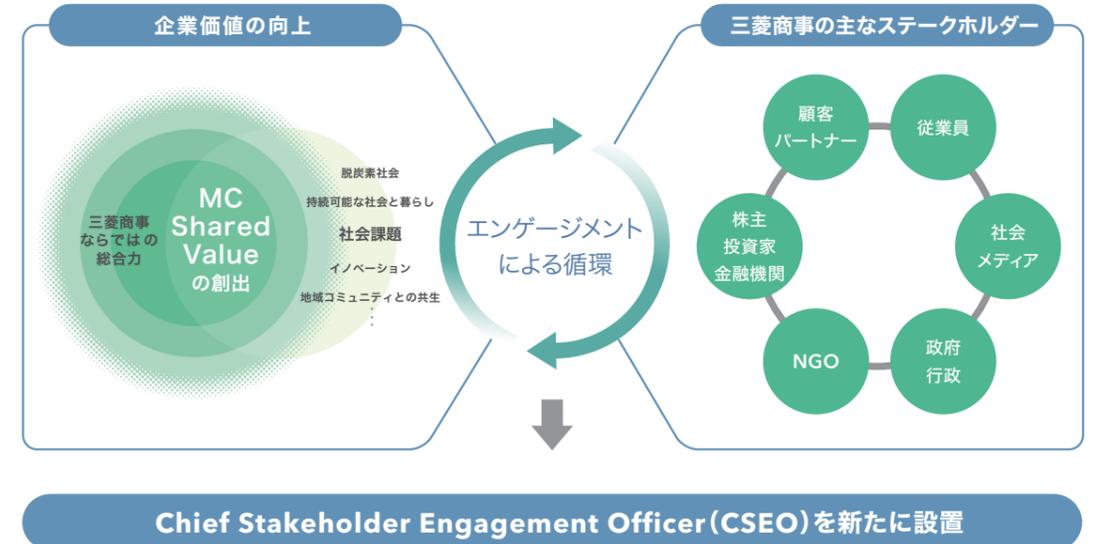
ステークホルダーの皆様からのご意見を踏まえ、さまざまな分野で対話・開示拡充を図ります

小林 健司

執行役員  
コーポレート担当役員 (CSEO)



ステークホルダーエンゲージメント



ステークホルダーエンゲージメントの強化を通じて、MC Shared Value (MSCV) の継続的創出に貢献

時代のニーズに合わせ、事業を通じ社会と共に成長を遂げてきた当社にとって、多様なステークホルダーとの協業・共生は必要不可欠です。当社は、ステークホルダーとの積極的な対話により、第三者視点を成長戦略に取り込むことで、共創価値の創出を通じた持続的な成長を目指しています。

この観点から、2023年に新たにChief Stakeholder Engagement Officer (CSEO)を設置し、私が就任することになりました。当社の財務・非財務情報を一体的に分かりやすくご説明しつつ、多様化するステークホルダーの皆様との双方向のエンゲージメントを重ねることで、株主・投資家、NGO、メディア等の関心事や要求レベルの異なるステークホルダー間にあるコンフリクト(摩擦)を最小化することが私の主な役割です。

ステークホルダーとの対話拡充

前述の通り、CSEOとしてはさまざまなステークホルダーと積極的な対話を重ねていきます。

四半期ごとの決算説明会に加え、当社の中長期の成長ス

トーリーを語る機会として、日本だけでなく、北米・ヨーロッパ・アジア等グローバルに株主・投資家含むさまざまなステークホルダーとの対話を実施しています。加えて、2023年には、当社で初めてMCSV Creation Forum～ESG説明会～を実施しました。今後もさまざまな切り口でフォーラムを実施し、ステークホルダーの皆様との対話の機会を積極的に拡充していきます。

ステークホルダーの要請を踏まえた開示拡充

ステークホルダーからの開示要請に応えるため、本年は気候変動の分野で開示拡充を実施しました。

具体的には、GHG排出量「Scope3カテゴリー11」を透明性高く開示することに踏み切りました。まだ開示の基準やルールが定まらない段階ですが、当社が率先して開示することで、取引先や事業パートナーとの会話を進め、産業界全体でも議論が活発化し、ルール作りや“共通言語”の浸透が進むことを期待しています。

また、社会全体のGHG排出量削減における具体的な貢献度合い、脱炭素社会への移行におけるビジネス機会をどの程度取り込んでいるかを示す定量的な指標として「削減貢献量」も新たに開示しました。具体的な案件としては、洋上風力

発電事業や電化を支える銅などの案件が対象です。サステナビリティ・ウェブサイトでは具体的計算式と共に公開しており、対象を順次広げているところです。

昨今の対話から得られたステークホルダーの皆様からの

貴重なご意見を踏まえ、EX投資をはじめとした、当社により具体的な中長期の成長絵姿などの開示拡充の必要性を認識しており、今後もさまざまな分野で対話・開示拡充を図っていきたく考えております。

Message



入社以来、金融関連事業に従事してきましたが、常に変化の中で、選択と集中を求められていたように感じます。

直近では、アセットファイナンス本部長として、グローバルなアセットファイナンス事業、企業の価値向上をサポートする企業投資事業などに注力するかたわら、航空機リース事業、証券会社事業、ファンド・オブ・ファンズ事業、LP投資事業から撤退し、環境に合わせた循環型経営を実践してきました。

当時の本部長に対して、ピーター・ドラッカーの「組織は存在することが目的ではない。種の永続が成功ではない。組織は社会の機関であり、外の環境に対する貢献が目的である」という言葉を伝えたことがありましたが、今般新しく設置され、私が任命されたCSEOという役職はまさにこの言葉を会社全体で体現していくためのものだと感じています。

CSEOとして、社会のステークホルダーの声を経営に届け、会社としてMCSVの継続的な創出を通じて、社会に貢献していきたいと考えています。